

沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学・統計解析委員会

【現状】

新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週（8月1日-7日）の新規陽性者数は34,225人（先々週34,245人）でした。沖縄本島（周辺離島を含む）における先週の実効再生産数(R)^{*1}は1.03[最小値0.68-最大値1.38]、このうち那覇市は1.07[0.84-1.32]でした。また、宮古は0.89[0.41-1.37]、八重山は0.81[0.52-1.35]でした（図1）。

^{*1}：最終日を除いた直近7日間における日別推定値（平均値）の平均値。[]内は、直近7日間における日別推定値（平均値）の範囲（最小値から最大値）を表す。

保健所管区別

保健所管轄区域別（7日間合計）では、北部2,195人（先々週2,125人）、中部11,737人（先々週12,343人）、那覇市7,094人（先々週6,672人）、南部10,566人（先々週10,028人）、宮古1,222人（先々週1,355人）、八重山1,041人（先々週1,364人）でした。宮古と八重山では減少が続いていますが、沖縄本島は感染拡大が続いています。とくに那覇市を含む南部において増加しています（図2）。

県外からの渡航者

感染を確認した県外からの渡航者（7日間合計）は335人（先々週336人）でした。全国での感染拡大を受けて、渡航者の感染例が急速に増えてきています（図3）。最多の渡航元は東京都の83人で、神奈川県40人、大阪府35人と続き、31都道府県に渡ります。また、このうち7人が入院し

ています。

年齢階級別推移

年齢階級別では、40代が5,375人（16%）と最多であり、30代が5,343人（16%）と続きます。10歳未満5,275人（15%）、10代4,268人（13%）でした（図4）。小児中心だった流行が壮年層へと拡大していますが、高齢者は緩徐に減少しています（図5）。小児については学校が休みになったため、症状を認めても検査を受けるよう求められなくなった影響も考えられます。なお、頻度は低いものの20代、30代など若者の重症者（人工呼吸器を装着）も県内で発生しています。

入院患者数推移

入院患者数は先週末時点で1,054人（7月31日時点981人）であり、このうち酸素投与など中等症患者は452人（7月31日時点419人）と増加しています。気管挿管など重症患者は12人（7月31日時点22人）と減少しています（図6）。なお、先週末時点の入院患者の内訳は、重点医療機関が654人であり、その他の医療機関が400人でした。その他の医療機関における入院患者のほとんどが院内感染であり、重点医療機関でも集団感染が多発していることから、県内の入院患者における半数以上が院内感染によるものと考えられます。これまでとは異なる今回の流行の特徴です。

沖縄県内において救急受入を担っている21の重点医療機関において、先週末時点で医師104人と看護師377人が新型コロナウイルスに感染して休職しています。濃厚接触者などその他の理由による休職者も含めると、医師126人と看護師

577人が働くことができなくなっています(図7)。休職者数が高止まりしていることから、沖縄県の救急医療と入院医療の機能が大幅に低下しています。

一方、社会福祉施設で療養されている陽性者は、先週末時点で181施設1,572人(7月31日時点

1,805人)と減少に転じてはいますが、いまだ高いレベルで推移しています(図8)。病院外で酸素投与が行われている療養者数も80人以上であり、入院すべき感染者が入院できないでいる状況が続いています(図9)。

【今後の見通しと対策】

沖縄県における流行は、宮古と八重山の離島では減少しているものの、沖縄本島では拡大が続いています。全県的に医療と介護の提供体制に深刻な影響が生じており、入院が必要な方が入院できず、そのまま介護現場で看取りを余儀なくされるなど、いわゆる医療崩壊の状態となっています。

7月以降、救急搬送件数は、コロナ発生前の2019年を凌ぐレベルで推移しており、県民が活発に活動していることが伺えます(図10)。その一方で、搬送困難件数も増加しており、現場で30分以上待機する件数が増加しているだけでなく、搬送先を4回以上探す件数も、これまでになく増加しています(図11)。必要な医療が受けられない状態は、コロナに限らず、すべての救急医療において生じています。

県内では、30代、40代の壮年層における報告数が増加しています。人が集まる場所では、マスクを着用してください。公共のモノに触れたときは、こまめに手を消毒してください。多人数での会食は控え、できるだけ同居する家族やパートナーなど親しい人としてください。発熱などの症状を認めるとき、仕事や学校を休み、外出を自粛することは極めて重要です。

感染者との濃厚接触(同居、会食、同じ車内で移動など)があったときは、少なくとも7日間はい食を控えたり、仕事をテレワークへ切り替えたりするなど、周囲に感染を拡げないように生活してください。そして、症状を認めたときは検査を受けて、感染の事実を周囲に伝えるようにしてください。保健所から濃厚接触者と指摘されなくとも、

こうした予防行動を自主的にとっていただくことが大切です。

県外からの渡航者の感染は、毎日50人前後で認めています。全体に占める割合は1%前後と低いものの、療養場所の確保に難渋しています。宿泊中のホテルでの延泊をお願いしていますが、満室であるためにチェックアウトを余儀なくされています。救急外来で入院させてほしいと求められることもあります。すでに沖縄県は医療崩壊しており、軽症者のために病床を提供する余力はまったくありません。

行き場を失った観光客については、県が確保している療養ホテルで優先的に調整しています。その分、家庭内感染を避けたい県民が利用できなくなっています。現在の流行状況を鑑みれば、渡航前に検査陰性を確認してから来県すべきです。症状があるなら渡航を控えるべきです。これら観光客としての責任を果たさない人々については、療養場所の確保を自己責任とするなど、より厳しい姿勢をとらざるを得ない状況にあります。

沖縄県では、8月10日から12日まで旧盆を迎えます。帰省客が急速に増えることが予測されますが、渡航前に検査陰性を確認するように伝えてください。昨年夏の流行においても、帰省客から高齢者への感染を多く認めています。親族との会食は最小限としていただき、とくに高齢者とマスクを着用しない交流は控えるようにお願いします。

各都道府県の無料検査事業サイト(内閣官房)

https://corona.go.jp/free_inspection/

今週の新規陽性者数は 30,000-40,000 人となると見込みます。ただし、検査・受診体制が限界となっているため、実際の感染者数に比して報告数は少なくなっている可能性があります。入院患者数については、今週末までに 1,100-1,250 人に至ると見込まれます（図 12）。

沖縄県では、コロナ感染拡大警報が出されて 1 ヶ月が経過し、医療非常事態宣言が出されて 2 週間が経過しています。これらによる流行の抑止効果は限定的であり、さらに強い抑止策が求められます。とくに旧盆による親族交流への警告を強く伝えなければ、高齢者を巻き込みながら再拡大して、現在の医療崩壊が長引く可能性があります。

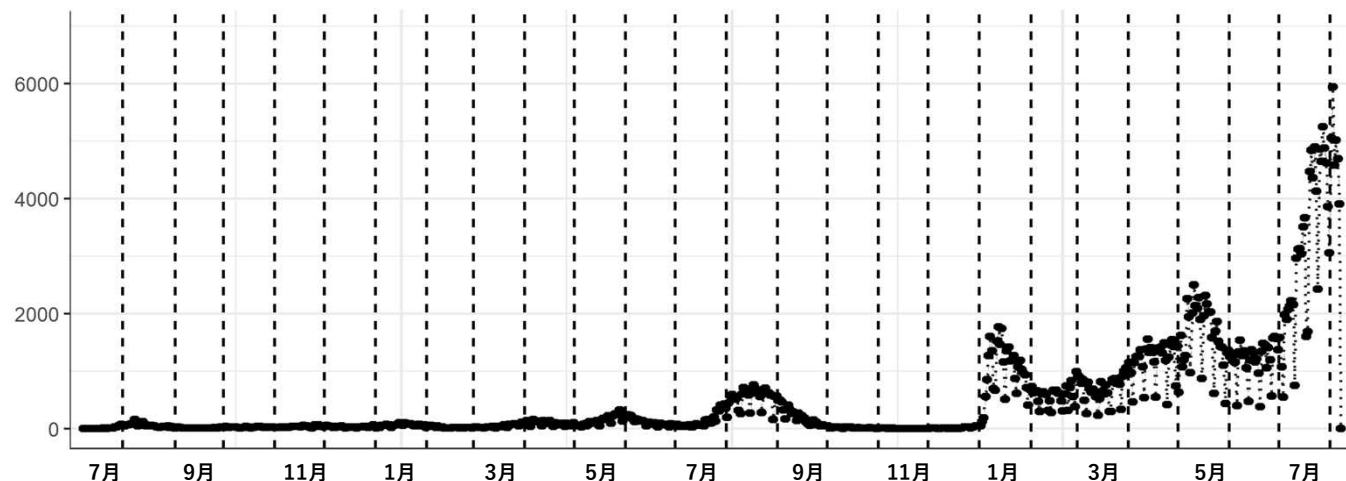
なお、沖縄県内では、インフルエンザの報告が徐々に増加してきています。7 月 18 日の週には 11 人の報告が定点医療機関よりありましたが、25 日の週には 13 人（北部 0 人、中部 4 人、那覇市 2 人、南部 6 人、宮古 0 人、八重山 1 人）に増えています。いまだ低いレベルですが、今後、新型コロナとの同時流行も想定する必要があります。

図1 陽性者数の推移と実効再生産数（北部、中部、南部）

陽性者数（確定日）

日あたり観察値

北部、中部、南部医療圏
（宮古・八重山を除く）



実効再生産数

直近7日間平均値

北部、中部、南部医療圏
（宮古・八重山を除く）

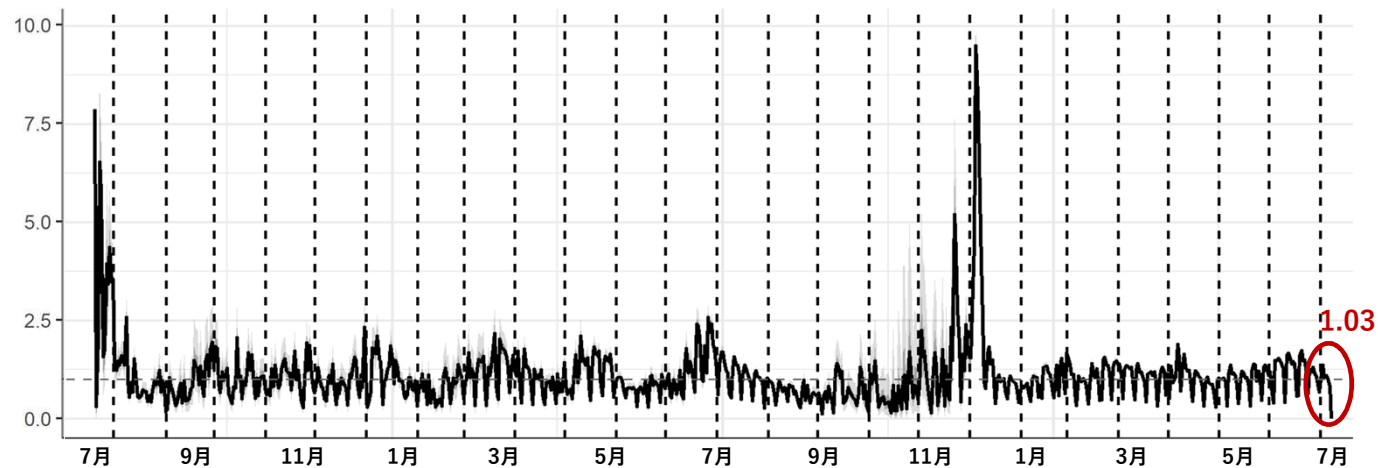


図2 保健所管区別にみる新規陽性者数の推移（沖縄県）

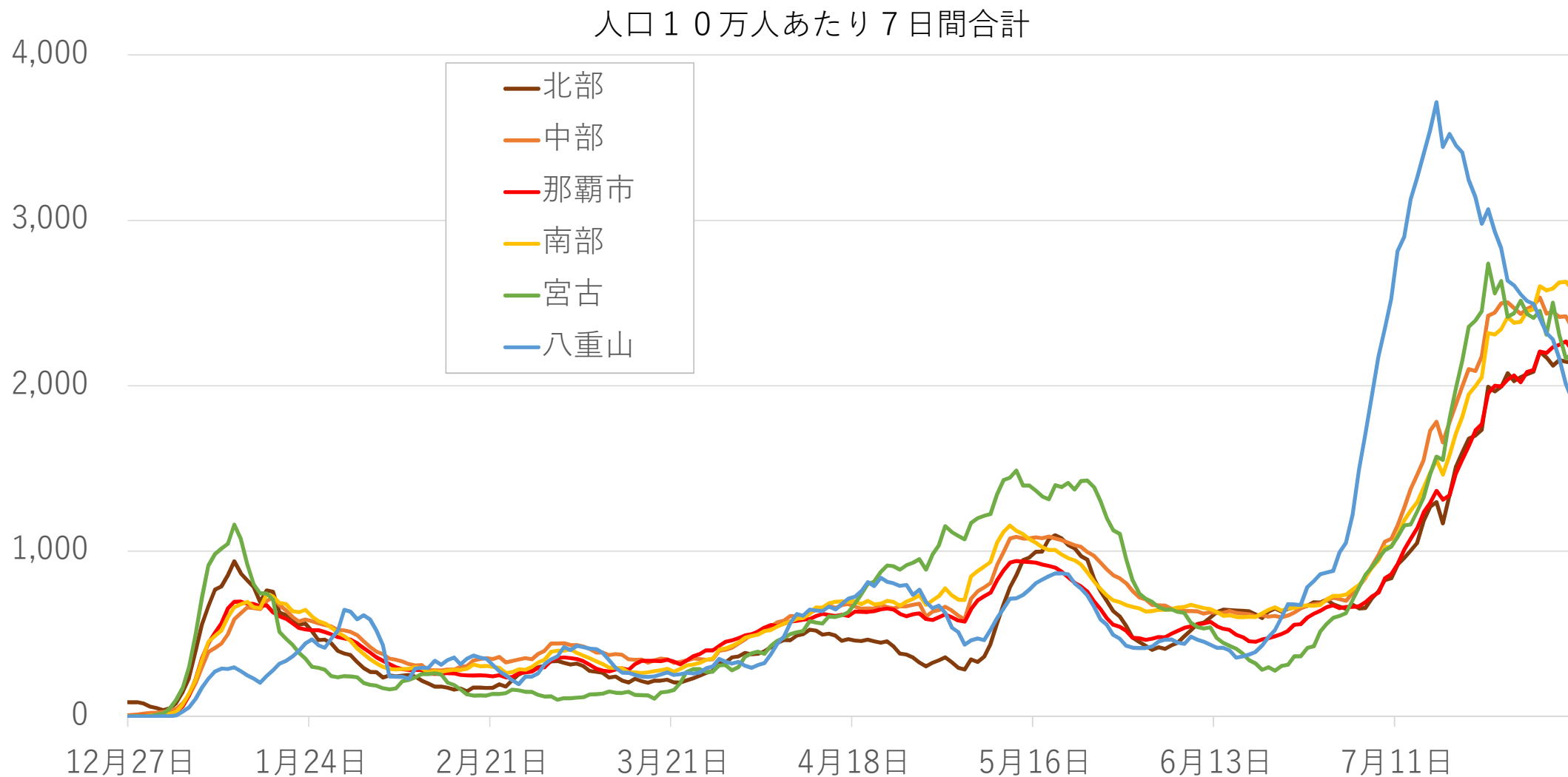


図3 県外からの渡航者における新規陽性者数の推移（沖縄県）

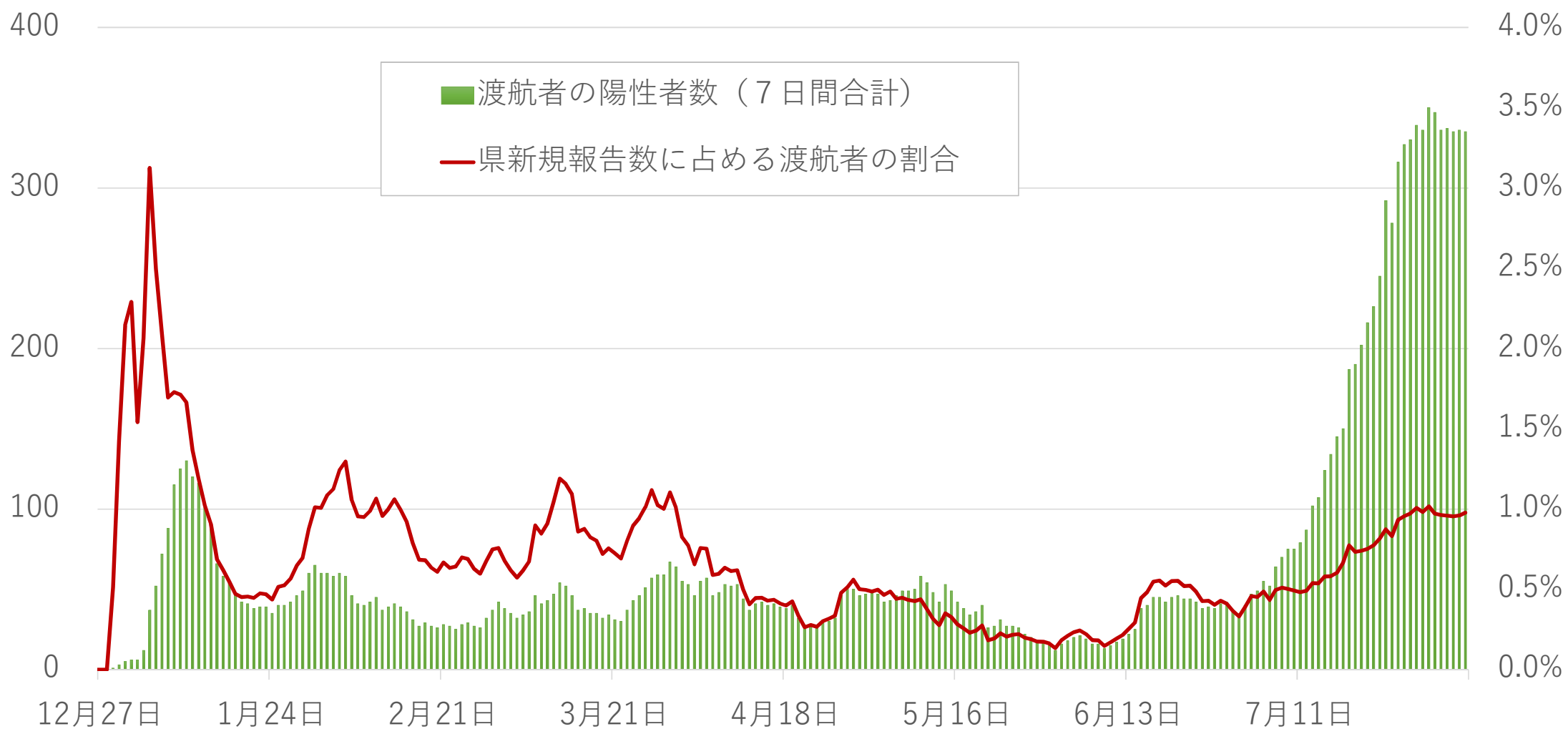


図4 性年齢階級別にみる陽性者数（7月25日～31日）

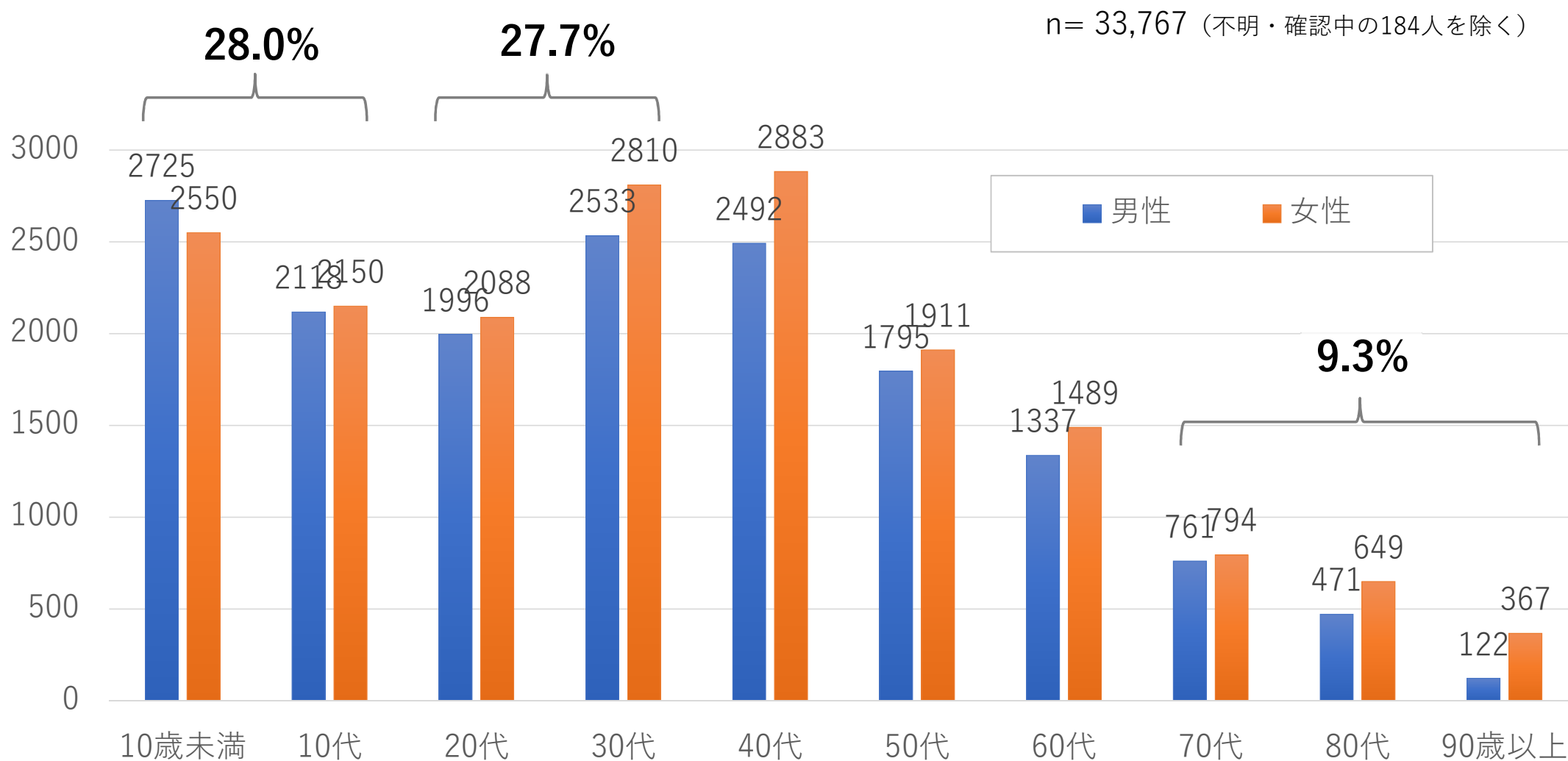


図5 年齢階級別にみる新規陽性者数の推移（人口10万人あたり7日間合計）

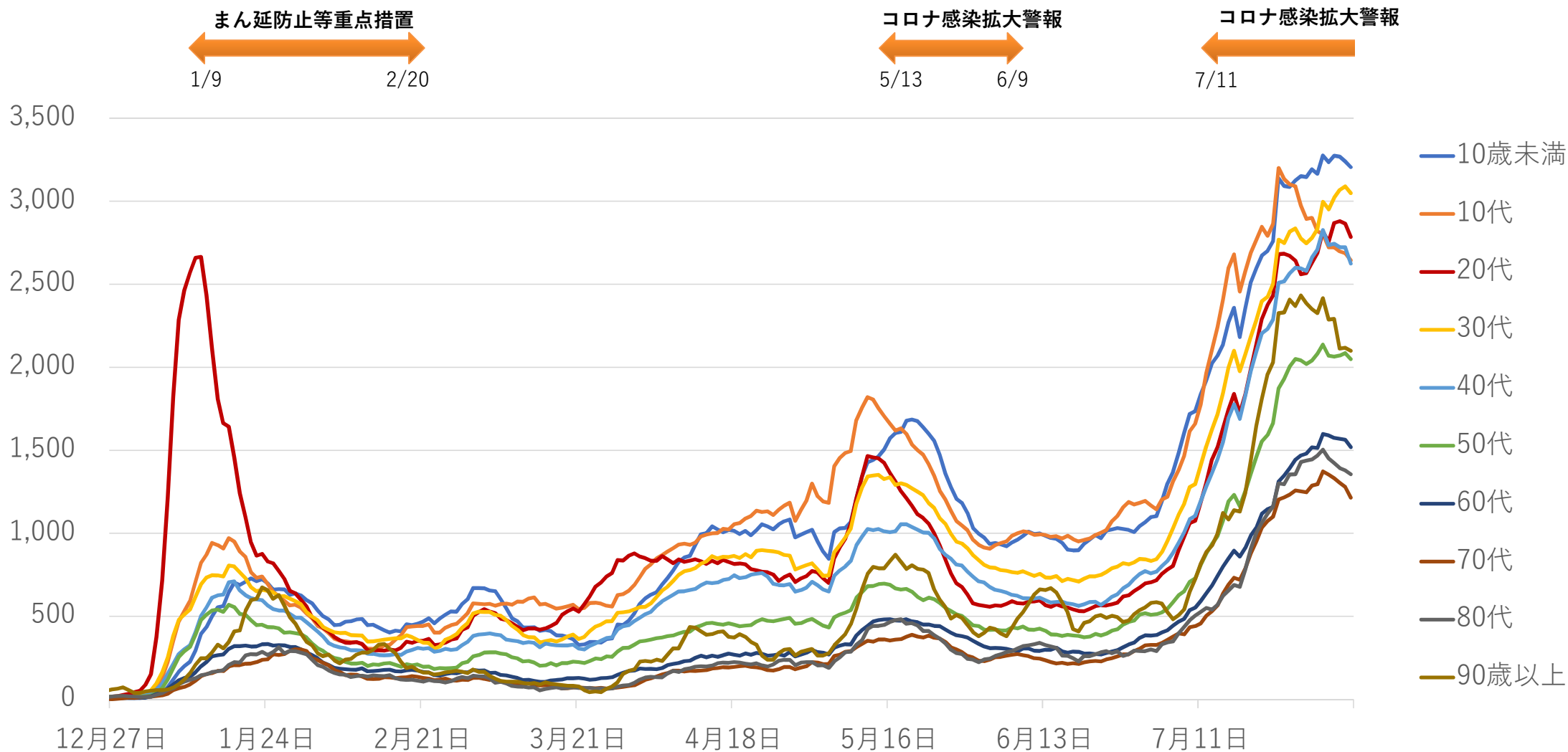


図6 新規陽性者数と重症度別入院患者数の推移

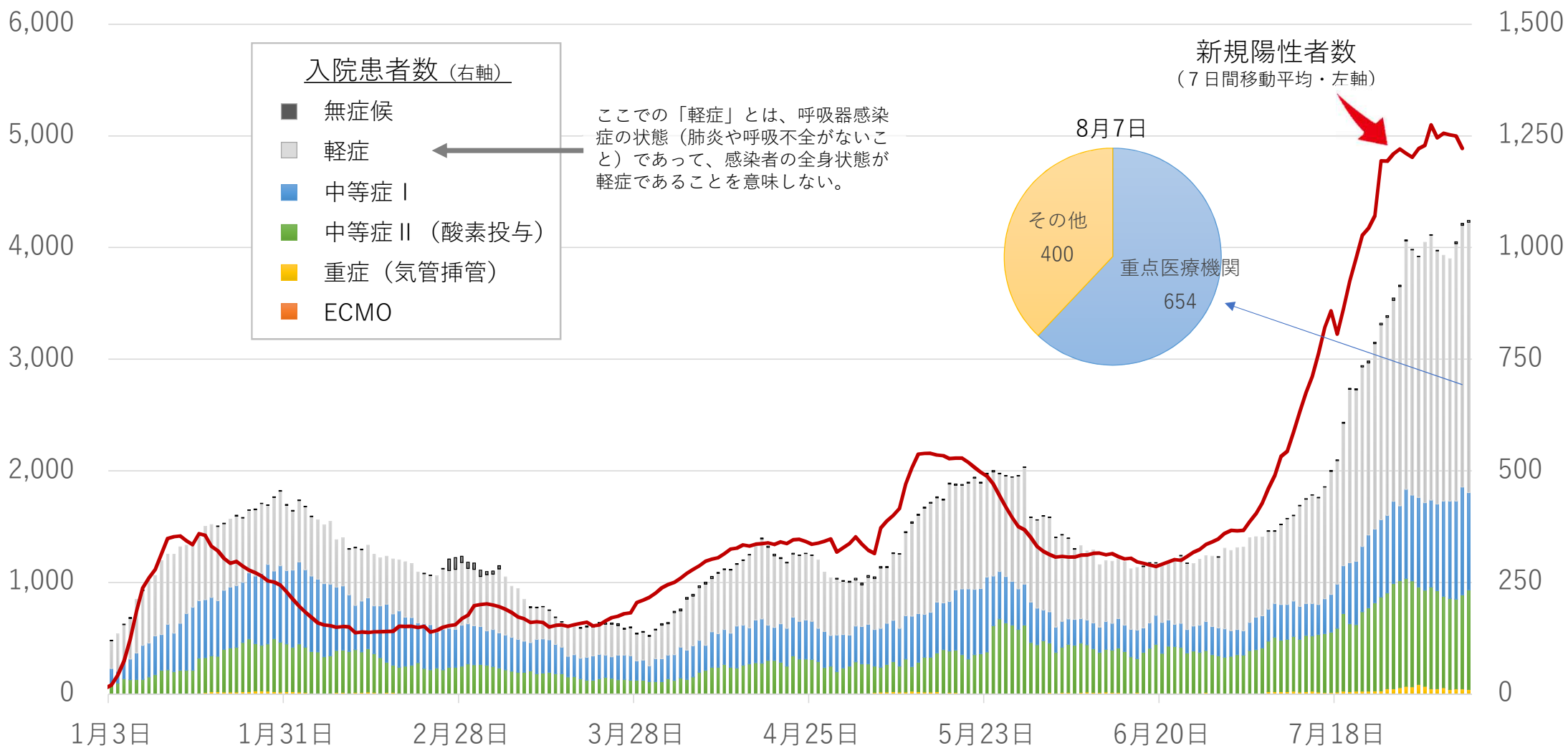
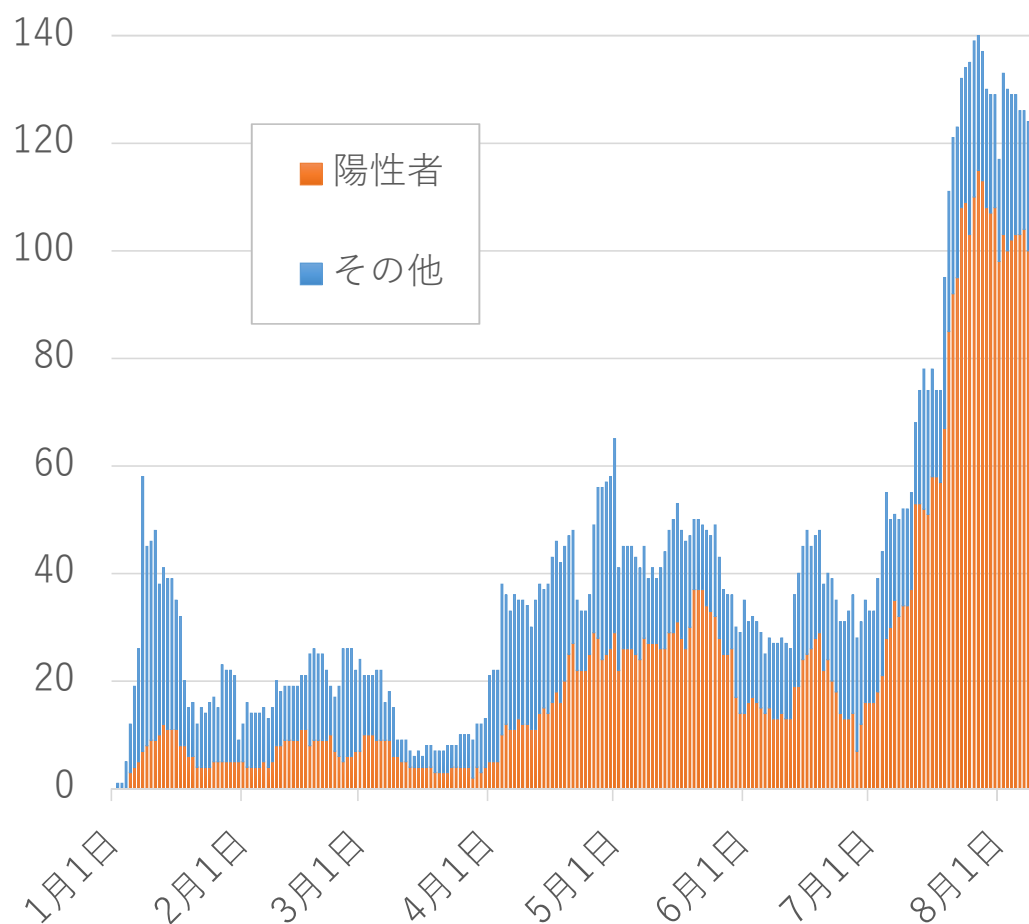


図7 重点医療機関（21病院）における医師、看護師の休職数

医師



看護師

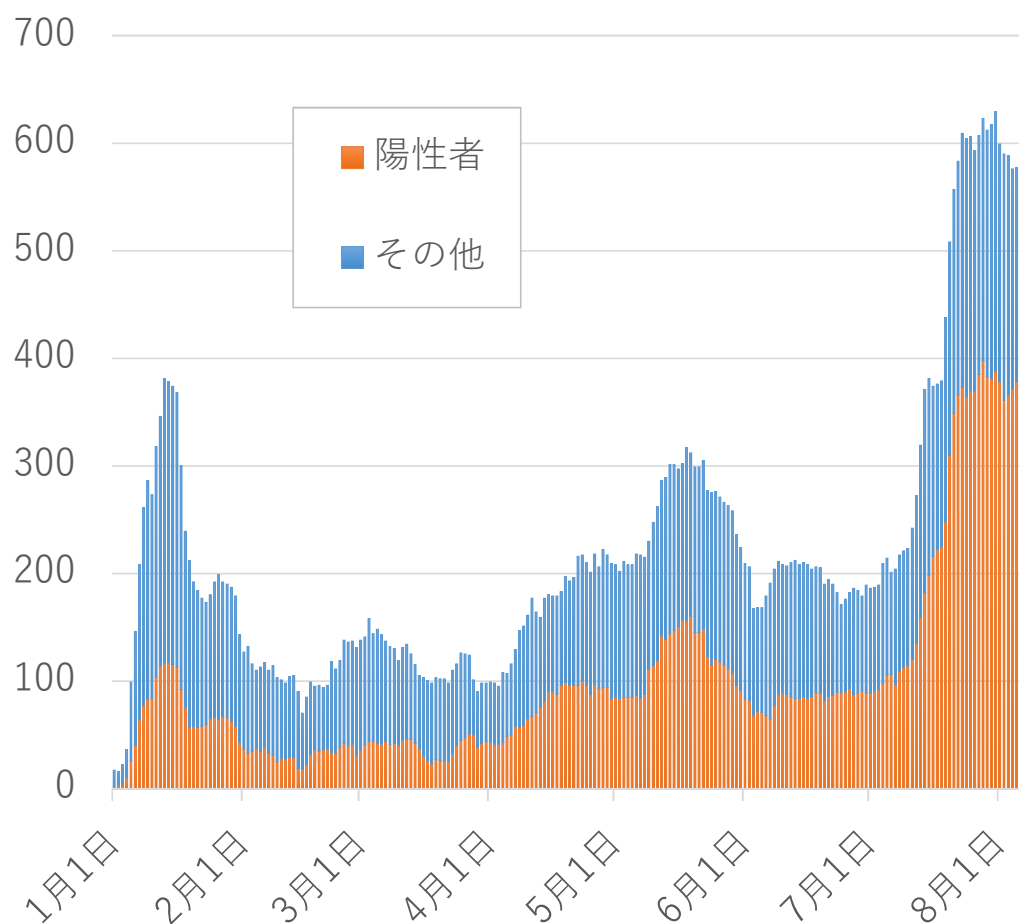


図 8 社会福祉施設における施設内療養者数

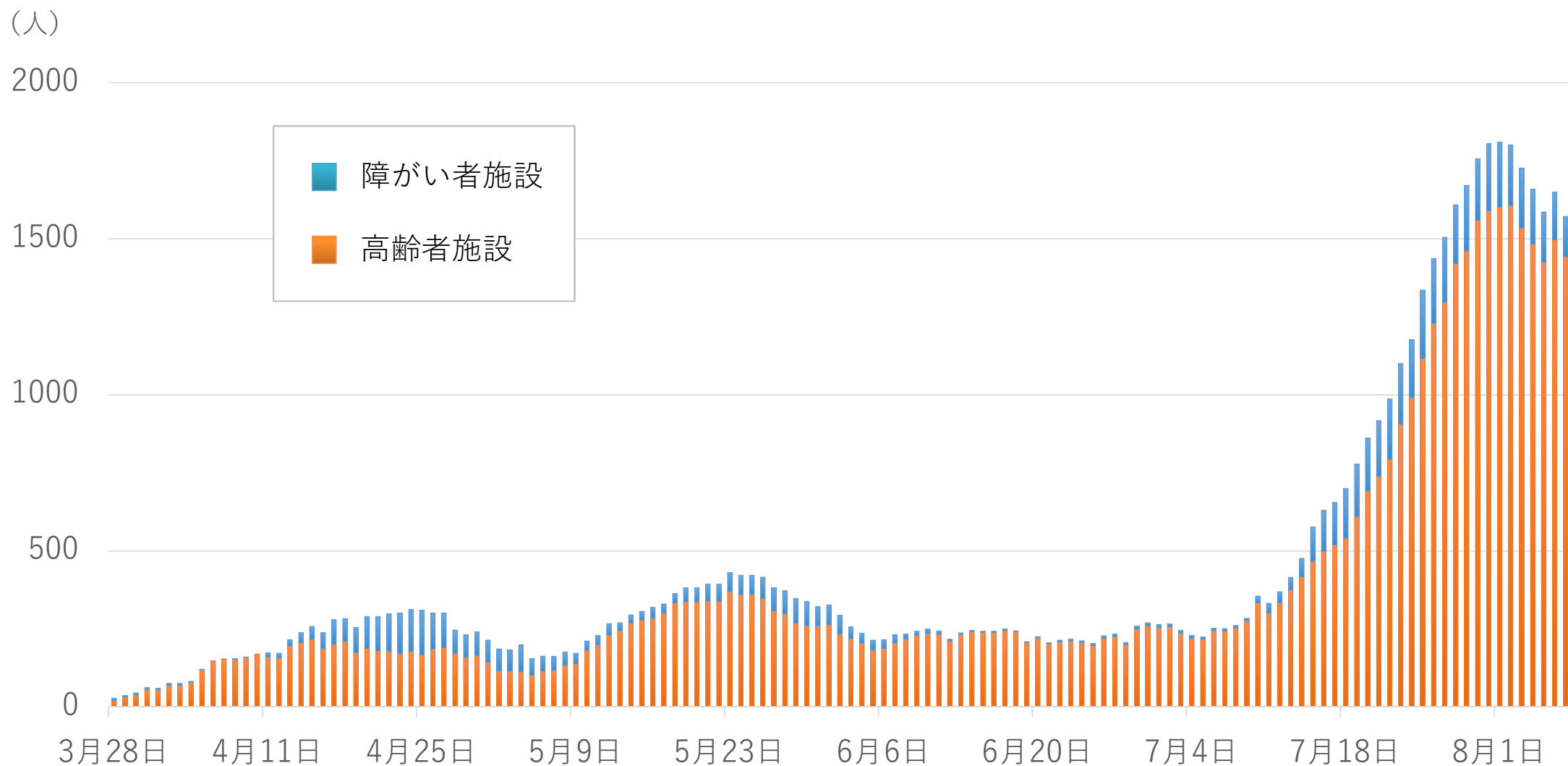


図9 病院外において酸素投与が行われている療養者数

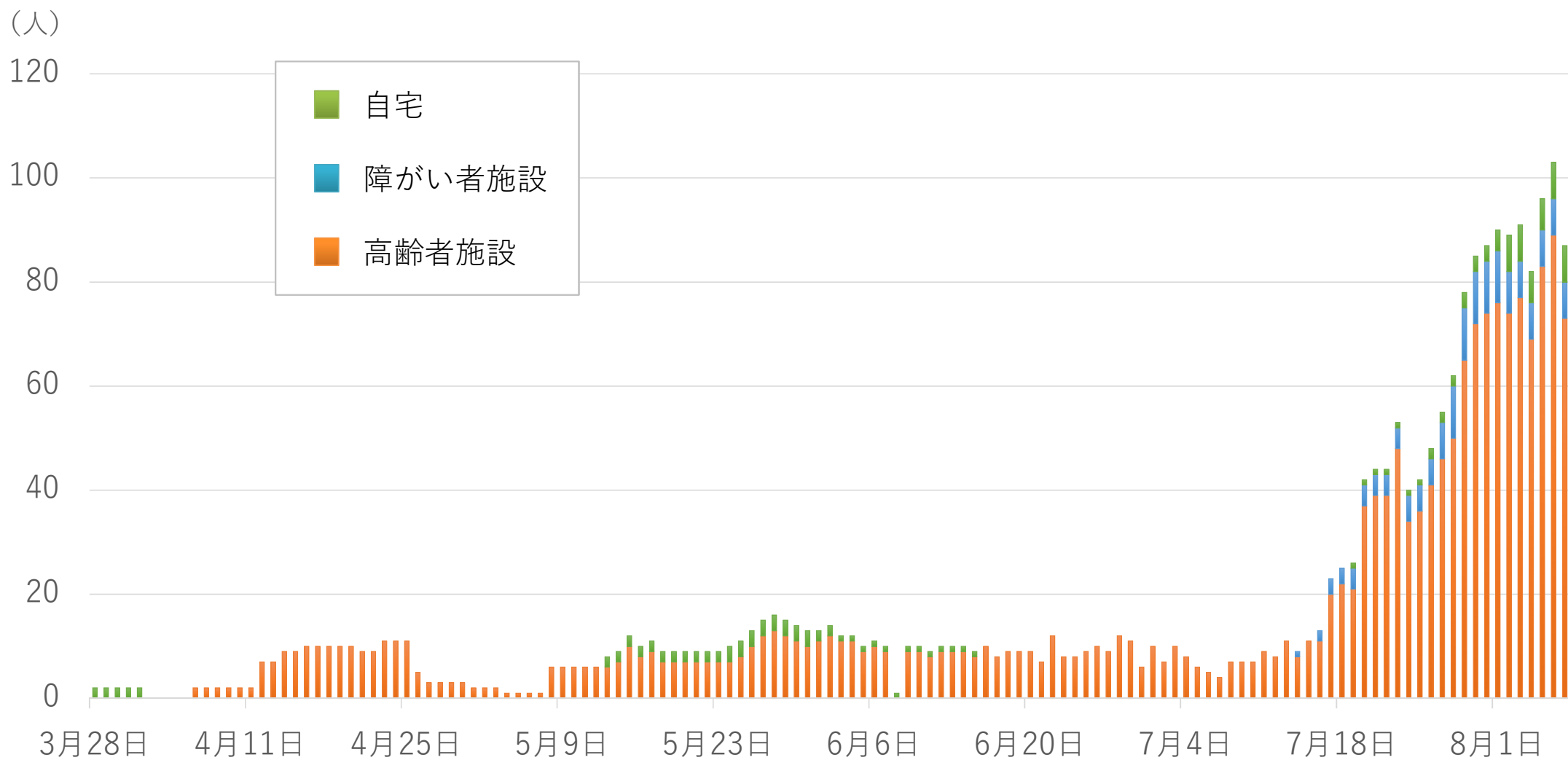


図10 沖縄県における救急搬送件数の推移

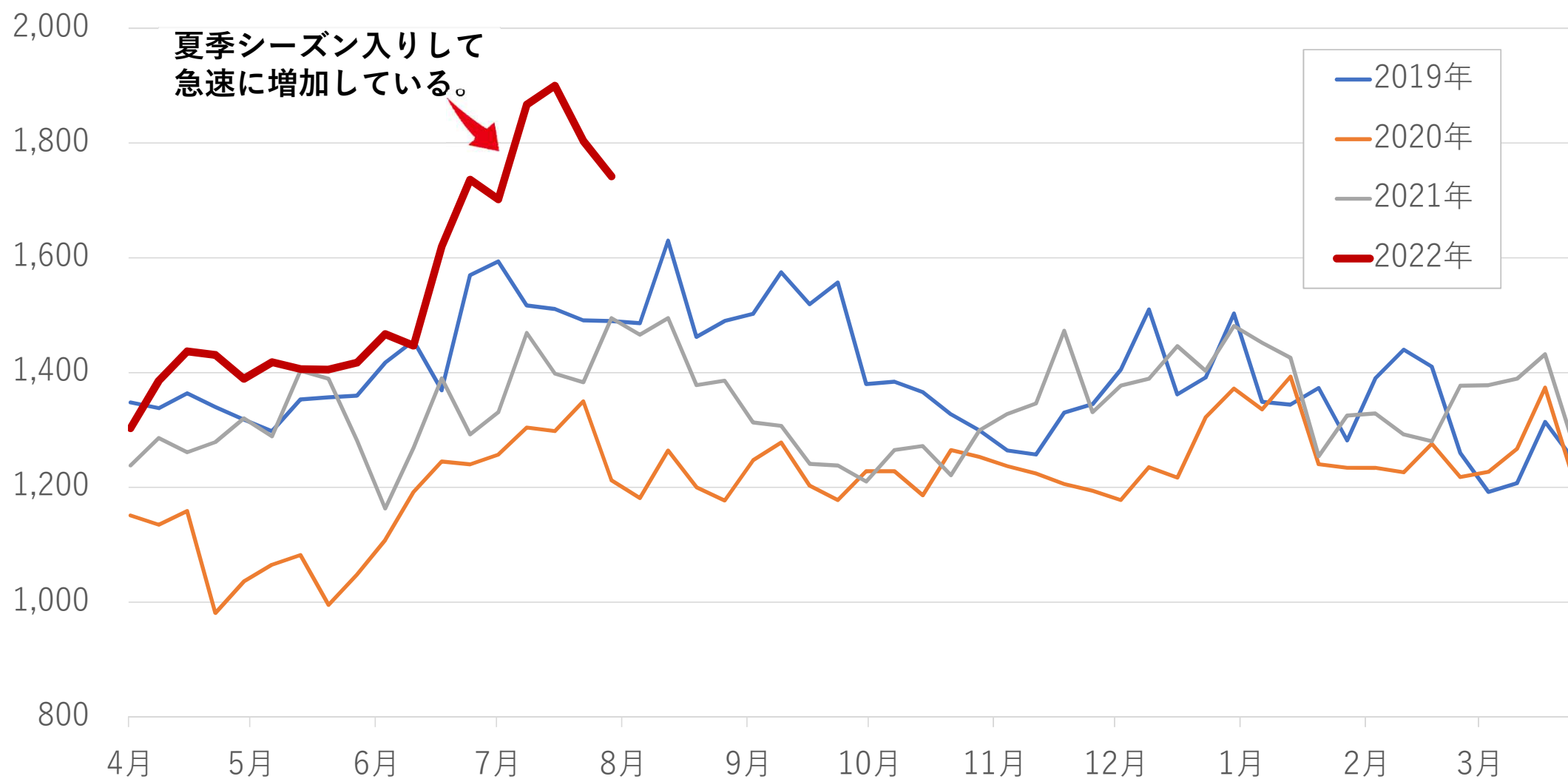


図11 搬送困難件数（30分以上待機、4回以上照会）の推移

30分以上待機

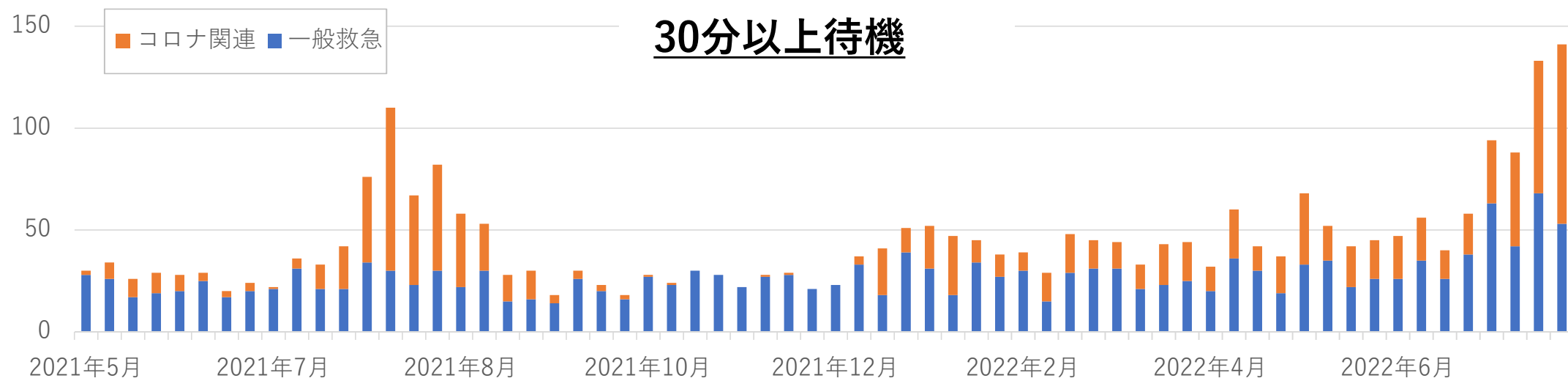


図10 今後1週間（8月8日-14日）の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率； 沖縄県
 年齢群別重症化率； 厚生労働省
 平均期間（入院・重症）； HER-SYS

	新規陽性者数（確定日）			入院患者数（8月14日時点）		
実効再生産数	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5
沖縄本島	16,000	32,220	64,883	908	1,127	1,488
宮古圏域	593	1,194	2,404	28	35	47
八重山圏域	540	1,087	2,189	30	37	48
合計	17,133	34,501	69,476	966	1,199	1,583